

教科目名 電気回路 (Electric Circuits)

学科名・学年 : 電気電子工学科 1年

単位数など : 必修 1単位 (後期1コマ, 学習保証時間 22.5時間)

担当教員 : 木本智幸

授業の概要			
電気回路は電気電子工学を学ぶ者にとって非常に重要な基礎科目である。また電気回路は多岐に渡るため、4年次まで発展的に講義を行う。1年次の前半では、電気回路の導入のために直流回路の計算理論を学び、後半では、2年生から始まる交流理論の基礎となる、キャパシタとインダクタの性質について学ぶ。			
達成目標と評価方法			大分高専目標 (B2)
(1) 電気回路の基礎知識および計算能力を身に付ける。(定期試験)			
(2) 基本的な電気の諸現象について知見を深め、身につける。(定期試験)			
(3) 演習問題を通して理解を深めるとともに、継続的な学習ができるようにする。(課題)			
回	授 業 項 目	内 容	理解度の自己点検
1-3	オームの法則 抵抗の直列・並列接続 分圧則・分流則 電位	オームの法則を用いて、抵抗の合成の方法を学習する。さらに、抵抗が直列に接続されているとき、各抵抗にかかる電圧の求め方や、抵抗が並列になっているとき各抵抗に流れる電流の求め方を学習する。	【理解の度合い】
4-7	キルヒホッフの法則 電気抵抗と抵抗率・導電率	複雑な回路になったときに、各抵抗にかかる電圧や流れる電流をオームの法則だけで求めることは困難となる。こうした複雑な回路の電圧電流を求める方法としてキルヒホッフの法則を学び、それを用いる方法を学ぶ。	【理解の度合い】
8	後期中間試験の解答と解説	わからなかった部分を理解する	【試験の点数】 点
9	仕事、電力、ジュール熱	電気を利用してモータを回したり、電熱線を熱したりすることができる。こうした仕事と電圧・電流の関係を学ぶ。	【理解の度合い】
10,11	キャパシタの基礎	2年生で習う交流理論の基礎となる、キャパシタやインダクタの性質について学ぶ。キャパシタは、電荷を貯めることができる。	【理解の度合い】
12,13	インダクタの基礎 電磁誘導に関するファラデーの法則、レンツの法則 インダクタの直列・並列接続	キャパシタにはどのくらいの電荷を貯めることができるかや、直列や並列にした電荷を貯める能力はどのようになるのかを学ぶ。インダクタは、電流を流すことで磁界を作る。また、内部の磁界を変化させると電圧を発生する。電流を流すとどのように磁界が発生し、磁界を変化させるとどのように電圧が発生するかを学ぶ。	【理解の度合い】
14	フレミングの左手の法則、右手の法則	フレミングの左手の法則、右手の法則を用いて電動機や発電機の原理について学ぶ。	【理解の度合い】
15	後期期末試験	自身の理解力を分析し、わからなかった部分	【試験の点数】 点
	後期期末試験の解答と解説	自身の理解力を分析し、わからなかった部分	【試験の点数】 点
履修上の注意	電気回路 は電気電子工学科における多くの教科の基礎となるため、演習を取り入れて完全理解に努めている。わからないところは先延ばしにせず、必ず質問すること。実力をつけるため課題は必ず全て解答して提出する。課題は自力で解くことを期待するが、分からない問題は空白で提出するのではなく、必ず質問に来ること。		【総合達成度】
教科書	演習 電気基礎理論上, 東京電機大学出版局		
参考図書			
関連科目	電気回路		
総合評価	達成目標の(1)~(3)について2回の試験と課題で評価する。 最終成績 = 0.8 × (2回の定期試験の単純平均) + 0.2 × (課題提出点) 総合評価が60点以上を合格とする。		【総合評価】 点